

iPS細胞研究WGについて

平成20年2月14日

ライフサイエンスPT

iPS 細胞研究WGの設置について

平成 20 年 1 月 29 日
基本政策推進専門調査会

1. 主旨

先日、京都大学山中教授が人工多能性幹細胞（iPS 細胞）の作成に成功した。これは、再生医療への利用が期待されている胚性幹細胞（ES 細胞）で問題とされている免疫反応や倫理面などの問題も回避、軽減されることより早急な臨床応用が期待される。一方で、iPS 細胞については、現時点では想定できないリスクの発現の可能性も否定できない。しかし、日本発のこの技術を世界に先立って確立するためには十分なバックアップ体制の構築と研究の進捗状況を踏えたルール作り等が不可欠である。

総合科学技術会議では、総合的・基本的な科学技術政策の企画立案及び総合調整を行う目的とした「重要政策に関する会議」というその位置づけから、iPS 細胞研究 WG を立ち上げ、iPS 細胞研究を円滑に進めるための環境づくりを行っていくこととする。

2. 検討内容

iPS 細胞研究に関して、以下の項目について検討を行っていく。

- (1) 包括的な iPS 細胞研究の進め方、研究体制の整備について
- (2) 研究の進捗状況に応じて、臨床研究の指針等のガイドライン類の整備と、各省調整について
- (3) iPS 細胞研究に関連した知財の保護とその支援方策について
- (4) iPS 細胞関連研究の国際動向について

3. WGメンバー

座長 本庶 佑	総合科学技術会議議員
薬師寺 泰蔵	総合科学技術会議議員
金澤 一郎	総合科学技術会議議員（日本学術会議会長）
西川 伸一	理化学研究所発生・再生科学総合研究センター副センター長
高橋 淑子	奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科教授
土屋 利江	国立医薬品食品衛生研究所療品部長
浅野 茂隆	早稲田大学先進理工学部特任教授
須田 年生	慶応大学医学部教授
平井 昭光	レックスウェル法律特許事務所代表パートナー
森崎 隆幸	国立循環器病センター研究所バイオサイエンス部長

※その他の総合科学技術会議議員は、アドバイザーとして、随時参加。

4. スケジュール

1月10日	第1回WG
2月～	月1回程度の会議開催
6月頃	第一次取りまとめ
6月以降	研究の進捗状況を見ながら、必要に応じて引き続き検討を継続

第1回 iPS 細胞研究 WG 概要

1月10日、第1回 iPS 細胞研究 WG が開催された。本 WG では、すでに iPS 細胞研究に対する支援を表明している文部科学省のみならず、厚生労働省・経済産業省からの支援も表明され、その支援態勢についての説明も行われた。

また、コンソーシアムの設立や、知的財産戦略についての議論も行われた。知的財産の議論の中では特許庁からも可能な限り支援していきたいという表明もあった。

《各省の iPS 研究等への投資予算額》

【文部科学省】

平成19年度：約 2.7 億円、平成20年度：約 30 億円

【厚生労働省】

・ iPS 細胞研究

平成19年度：約 0.9 億円、平成20年度：増額予定

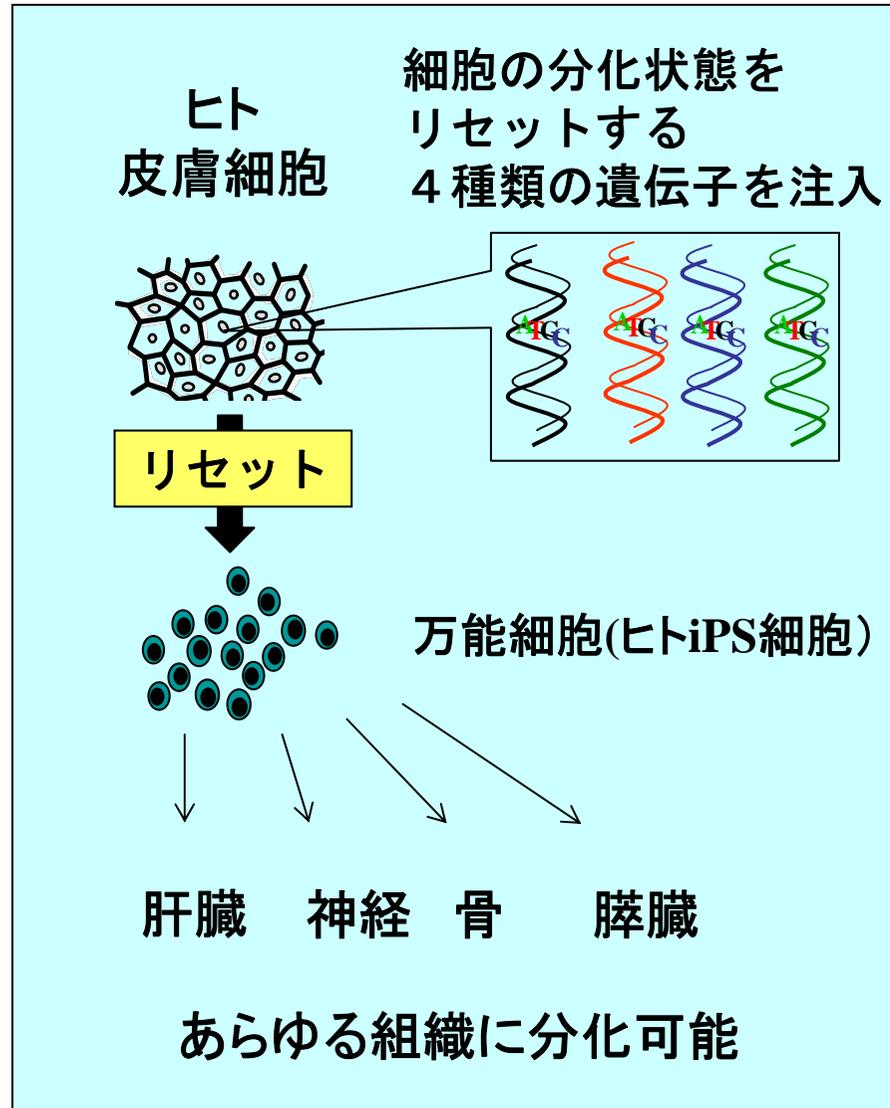
・ その他再生医療関係予算

再生医療等研究事業 4.6 億円(H19)、再生医療実用化事業 5.3 億円(H20)

【経済産業省】

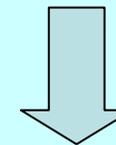
平成20年度：基礎から臨床研究への橋渡し促進技術開発分 14.5 億円、
再生医療評価研究開発事業 7.5 億円

我が国発の新しいヒト万能細胞



昨年、マウスで、世界で初めて、人工多能性幹細胞(iPS細胞:induced pluripotent stem cell)樹立に成功している。

京都大学 再生医科学研究所 山中伸弥 教授
Cell, 2006 Aug 25;126(4):663-76 .



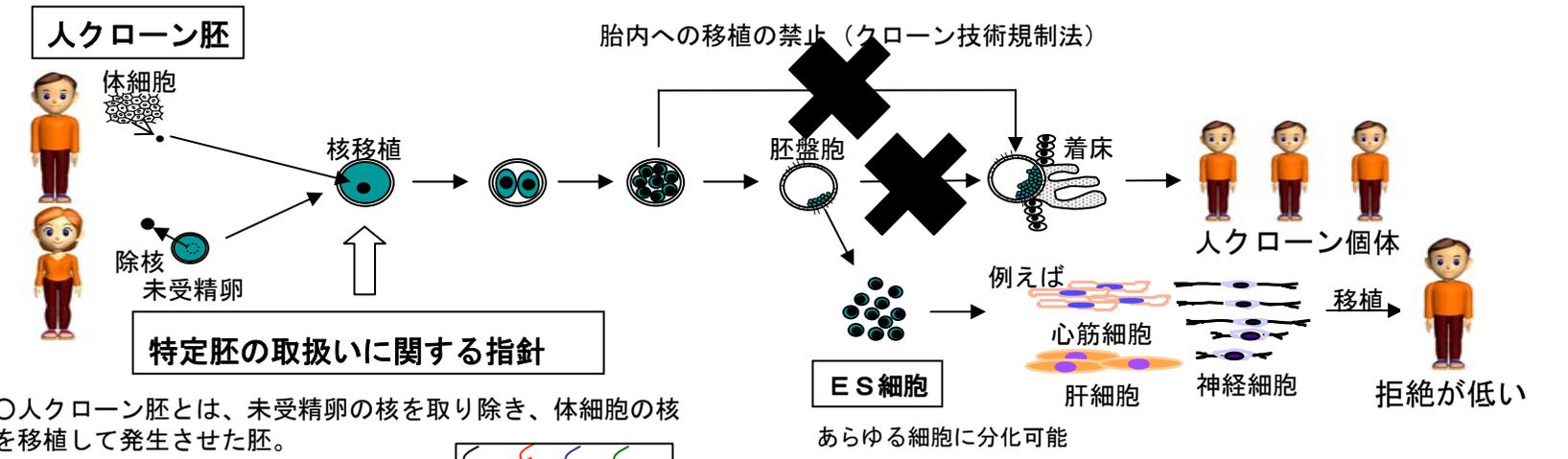
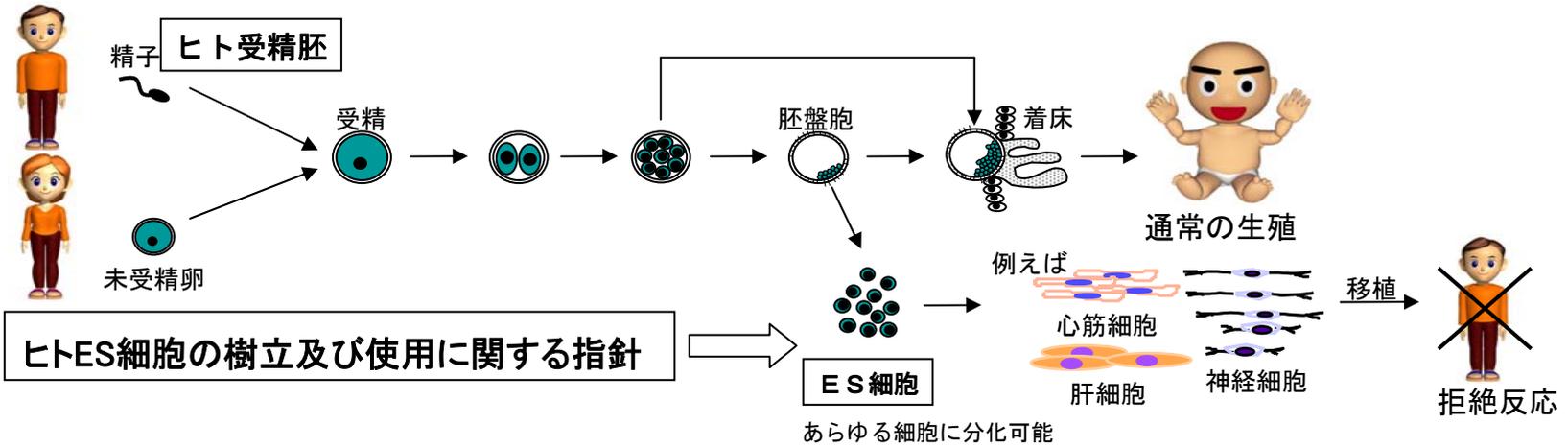
ヒトに応用して
世界で初めて成功

革新的技術

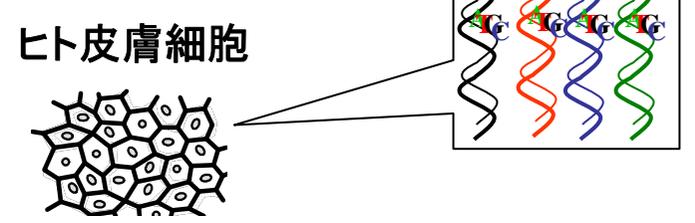
- ・本人由来の万能細胞
- ・全ての臓器機能の再生可能
- ・生命倫理上の問題を回避
ヒト胚などを使用せず

京都大学 再生医科学研究所 山中伸弥 教授
Cell 電子版 2007 Nov.20 掲載 .

ヒト受精胚、人クローン胚及びES細胞について



○人クローン胚とは、未受精卵の核を取り除き、体細胞の核を移植して発生させた胚。



リセット

